

# 早生モモ新品種「さくひめ」の果実特性

「ちよひめ」より糖度が高く、温暖な宮崎県で栽培が可能な品種です

## 背景・目的

- 農業・食品産業技術総合研究機構で育成されたモモ「さくひめ」は、早生で良食味の品種です。
- 休眠から覚醒するために必要な7.2℃以下の低温要求時間が主要品種の約半分であるため、温暖化に対応できる品種として期待されています。
- 温暖な本県での樹体特性及び果実品質について調査しました。

## 成果の内容

- 「さくひめ」は核割れ果の発生が極めて少ないです。
- 開花盛期は「ちよひめ」より10～20日程度早く、収穫盛期は「ちよひめ」と同等か数日程度早くなります。
- 果実重は「ちよひめ」よりやや重く、糖度は「ちよひめ」より1度以上高く良食味です。

表：果実品質

品 種	年度	開花盛期 (月・日)	収穫期			果実重 (g)	糖度 (Brix)	核割れ
			始	盛	終			
さくひめ	2014	3.3	5.27	6.2	6.9	160.8	11.3	無～極少
	2015	3.13	6.4	6.9	6.10	171.8	10.8	
	2016	3.11	5.30	6.2	6.6	167.4	11.5	
ちよひめ	2014	3.22	5.30	6.5	6.9	148.0	10.1	中
	2015	3.22	6.4	6.9	-	157.5	9.5	
	2016	3.25	6.2	6.6	-	140.5	10.0	



写真:「さくひめ」の樹姿



写真:「さくひめ」の果実

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 低温要求量が少なく、果実品質も高いので、温暖な本県でも産地化に取り組むことが可能です。
- 普及対象地域・面積 県内全域 5.1ha

## 留意点

- この品種は、低温要求量が少ないので県内全域での栽培が可能です。
- ただし、開花が早く、せん孔細菌病にやや弱いため、晩霜の恐れがある地域及び風当たりの強い園地での植栽は避ける必要があります。